

経営改善目標の達成に向けた取組状況

1 法人の概要（令和6年7月1日現在）

法人名	(公財)神奈川県下水道公社				
設立年月日	昭和55年5月23日	代表者名	理事長 浅羽 義里		
所在地	平塚市四之宮四丁目19番1号	電話番号	0463-55-7211		
基本財産等	110,000,000 円	県出資額	55,000,000 円	県出資率	50.0 %

2 法人運営における現状の課題

当社は、県と流域関連市町が設立した県主導第三セクターとして、県から流域下水道の維持管理業務を受託するとともに、市町から流域関連公共下水道の水質分析等技術的業務を受託するなど、流域下水道と流域関連公共下水道の一体的水質管理に寄与している。

現在、人口の減少や施設の老朽化など、当社や下水道事業を取り巻く環境は、大きく変化してきている。

このような状況を踏まえ、当社は、令和元(2019)年度から5ヶ年間の「第6期経営改善計画」を策定し、効率的な設備運用によるコスト削減、施設への老朽化対応、災害時への対応、市町への技術支援及び普及啓発活動の充実など、更なる運営の健全化や効率化に取り組んでいる。

3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

* 項目ごとに、下段の()内に目標を、上段に実績を記載してください。

【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度自己評価
①	設備診断による計画的な施設管理	%	25 (25)	50 (50)	78 (75)	110 (100)	— (—)	—
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	設備診断計画に基づき、対象機器の設備診断を実施するとともに、診断結果のとりまとめを行い、施設情報システムの修正を行った。（設備診断は令和4年度までに実施済み）							
	備考							
新たな設備機器の導入により、当初計画で予定していた診断機器数を診断実績数が上回ったため110%となっている。								

No.	項目	単位	元年度～5年度 (2019年度)		5年度自己評価
②	緊急時の配備体制の充実		第1段階	実践に即した訓練を定期的実施する。 (震災訓練 3回/年、防災訓練 2回/年、 *水質異常初期対応訓練 1回/年) *は3年度から4回/年に修正	A
			第2段階	訓練結果を検証し、問題点の抽出等を行う。	
			第3段階	各種マニュアルの改定及び体制の見直しを行い、 マニュアルを確実に運用できるよう継続的に訓練 を実施する。	
	取組年度	元年度 (2019年度)		2年度	
第1段階	震災訓練 2回/年 防災訓練 2回/年 水質異常初期対応訓練 1回/年	震災訓練 3回/年 防災訓練 2回/年 水質異常初期対応訓練 1回/年			
第2段階	第1段階の訓練の結果、震災訓練における情報共有の仕方に整理が必要など、課題が判明した。	昨年度の反省点を活かし、震災訓練における災害対策室のレイアウト変更や様式変更を行い、効果を検証した。			
第3段階	第2段階の検証結果を踏まえて見直しや改善を図り、「地震時行動マニュアル」の改訂を行った。	第2段階の検証結果を踏まえて見直しや改善を図り、「地震時行動マニュアル」の改訂を行った。			
② 続き	取組年度	3年度		4年度	
	第1段階	震災訓練 3回/年 防災訓練 2回/年 水質異常初期対応訓練 4回/年	震災訓練 3回/年 防災訓練 2回/年 水質異常初期対応訓練 4回/年		
	第2段階	水質異常初期対応訓練では、公社単独訓練に加え、県・市町との合同訓練を実施し、効果を検証した。	水質異常初期対応訓練では、公社単独訓練に加え、県・市町との合同訓練を実施し、効果を検証した。		
	第3段階	第2段階の検証結果を踏まえて見直しや改善を図り、「水質異常時の維持管理対応マニュアル」などの改訂を行った。	第2段階の検証結果を踏まえて見直しや改善を図り、「水質異常時の維持管理対応マニュアル」などの改訂を行った。		
	取組年度	5年度			
	第1段階	震災訓練 3回/年 防災訓練 2回/年 水質異常初期対応訓練 4回/年			
	第2段階	水質異常初期対応訓練では、公社単独訓練に加え、県・市町との合同訓練を実施し、効果を検証した。			
第3段階	第2段階の検証結果を踏まえて見直しや改善を図り、「水質異常時の維持管理対応マニュアル」などの改訂を行った。				
自己評価 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)		
計画していた全ての訓練を実施し、訓練で得られた課題等から、PDCAサイクルを行い、マニュアルの改善が図れた。					
備考					

No.	項目	単位	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度自己評価
③	事業場の排水担当者研修会の実施	回目	— (—)	0 (1)	2 (2)	3 (3)	4 (—)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、オンラインを加えた研修会を継続して実施し、県や市町に対する技術的なサポートを行った。							
	備考							

No.	項目	単位	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度自己評価
④	下水道出張教室の充実	回	23 (23)	30 (23)	59 (23)	56 (24)	50 (24)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、オンライン方式を取り入れながら、目標を大幅に上回る回数の出張教室を流域市町の小学校で行い、下水道や環境問題への子供たちの理解を深めた。							
	備考							

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度自己評価
①	電気設備の運用方法の最適化	千円	△340 (△340)	△340 (△340)	△340 (△340)	△340 (△340)	△340 (△340)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	柳島水再生センターにおいて、3台の主変圧器を最適な運転台数で運用し、変圧器における損失を減らすことで電力を削減し、目標どおりの電気料金の縮減を図った。							
	備考							

No.	項目	単位	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度自己評価
②	沈砂池の自動運転の最適化	千円	△ 160 (△ 160)	△ 160 (△ 160)	△160 (△ 160)	△ 160 (△ 160)	△ 160 (△ 160)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	柳島水再生センターにおいて、低段沈砂池し砂系自動運転の細目除塵機を、最適なサイクル数に変更することにより、目標どおりの電気料金の縮減を図った。							
	備考							

No.	項目	単位	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度自己評価
③	汚泥処理施設の集約化による運転管理業務等の見直し	千円	△ 3,360 (△ 3,830)	△ 7,065 (△ 7,350)	△ 7,350 (△ 7,350)	△ 7,350 (△ 7,350)	△ 7,200 (△ 7,200)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	四之宮水再生センターの南系汚泥処理施設を停止し、北系汚泥処理施設に集約することで、目標どおりの運転管理業務委託費や電気料金などの縮減を図った。							
	備考							

No.	項目	単位	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度自己評価
④	一括発注の推進（工事等）	千円	△ 14,460 (△ 7,000)	△ 10,210 (△ 7,000)	△ 21,300 (△ 7,000)	△ 6,980 (△ 7,000)	△7,100 (△ 7,000)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	工事等の契約において、一括発注を推進することにより、目標を上回る経費の縮減を図った。							
	備考							

No.	項目	単位	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度自己評価
⑤	汚泥貯留地管理業務の見直し	千円	△ 1,500 (△ 1,500)	△ 1,500 (△ 1,500)	△ 1,500 (△ 1,500)	△ 1,500 (△ 1,500)	△ 1,500 (△ 1,500)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	相模川汚泥貯留地において、汚泥貯留地管理業務の見直しと併せて、管理委託業務日数を見直すことにより、目標どおりの人件費の縮減を図った。							
	備考							

No.	項目	単位	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度自己評価
⑥	広場管理人員の削減	千円	△ 1,500 (△ 1,400)	△ 1,478 (△ 1,400)	△ 1,488 (△ 1,400)	△ 1,478 (△ 1,400)	△ 1,478 (△ 1,400)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	酒匂水再生センターにおいて、広場管理業務の見直しと併せて、管理委託業務の人員体制を見直すことにより、目標を上回る人件費の縮減を図った。							
	備考							

4 取組実績等についての総括（法人）

- 1 これまでの取組についての総括
 計画の実施に当たっては、P D C Aサイクルにより円滑な推進に努めた。
 <令和5(2023)年度の取組結果に関する評価〔Check〕及び改善〔Action〕>
- (1) 県民サービスの向上
 すべての項目で目標を達成することができた。
 - (2) 収支健全化に向けた経営改善
 すべての項目で目標額を達成し、削減目標額17,600千円を上回る17,778千円の削減を達成した。
 (達成率101%)
- 2 今後の取組みに向けた考え方
 第6期経営改善目標の5年目（最終年度）は、全ての項目で目標を達成することができた。
 今後は、これまでの取組状況を踏まえて、令和6年度から5年間で実施する「第7期経営改善計画」へ取り組むこととする。

5 取組実績等についての総括（所管課）

経営改善目標の達成に向けた「県民サービスの向上」や「収支健全化に向けた経営改善」の取組みについて、すべての項目で目標を達成できている。

「県民サービスの向上」については、特に、事業場の排水担当者研修会の実施や下水道出張教室の充実において、オンライン形式を積極的に活用したことで、設定した目標を大きく上回り、大いに評価できる。

また、「収支健全化に向けた経営改善」については、特に、一括発注の推進において、令和4年度では目標未達だったものの、令和5年度でその未達部分を上回る目標達成した点は大いに評価できる。

これからも引き続き、工夫を図りながら、計画に基づく経営改善に取り組んでもらいたい。